

仙ノ山散策スポット

ほんだに 本谷地区 いしがね さんじんじゃ 石銀・山神社方面

本谷地区の見どころ

本谷は、石見銀山で最も大量の銀を産出した地域で、岩盤の壁面が加工された跡や採掘の坑道（間歩）など、さまざまな方法で銀を採掘した跡を見ることができます。



金生坑(きんせいこう)

江戸時代に掘られた坑道。明治期に本谷の鉱石を清水谷へ運搬するため、同じ標高にある蔵之丞坑に坑道をつなげられた。



大久保間歩(おおくぼまぶ)

徳川幕府初代石見銀山奉行大久保長安の名がつく石見銀山最大級の坑道。江戸初期に開発され、大量の銀を産出した（金土日祝のみ公開・事前ツアー予約制）。



釜屋間歩(かまやまぶ)

山師の安原伝兵衛が発見したといわれる坑道。発掘調査で見つかった、階段やテラスなどの岩盤加工痕が四方に広がる。

しみずだに 清水谷地区

清水谷地区の見どころ

清水谷では、石見銀山の明治期の遺構を見ることができます。明治26年から27年、本谷で採掘した鉱石は、坑道を通して清水谷へトロッコで運ばれた後に製錬されていました。



清水谷製錬所跡(せいれんじょあと)

選別作業を終えた鉱石が運ばれ、銀を取り出す作業を行った施設の跡。残された建物の石垣が、威容を伝えている。



選鉱場跡(せんこうじょうあと)

清水谷に運ばれた鉱石の選別作業を行った施設の跡。建物の煉瓦や石垣が一部残っている。



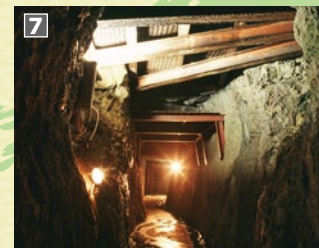
石銀集落跡(いしがねしゅうらくあと)

石見銀山で栄えた集落の一つと伝えられる、山頂付近の平坦地。銀の製錬に使われた鉄鍋や鉱山道具、陶磁器などが見つかった。（写真は発掘調査時のもの）



露頭掘り跡(ろうとうほりあと)

地表に露出した銀を採掘した跡。採掘箇所では斜面が溝のようにくぼんでいたり、数メートルにわたり岩盤の縦方向に採掘跡が続いているものもある。



龍源寺間歩(りゅうげんじまぶ)

有料一般公開されている坑道。壁面の江戸期のノミ跡がよく残されている。江戸中期、代官所直営の坑道として操業された。



佐毘売山神社(さひめやまじんじゃ)

15世紀中頃創建された鉱山の守り神「金山彦命」を祀る山神社。山神社としては国内最大規模で、現在の社殿は、文政2年（1819年）再建のもの。